

HeartCore
他環境データ配信マニュアル
March 2013 Ver1.1

改訂履歴

	改訂日	改訂内容
初版	2011年8月	新規作成
Ver1.1	2013年10月	フォーマット改訂

目次

1. 本文書の目的と対象ライセンス	4
1.1. 目的.....	4
1.2. 対象ライセンス.....	4
2. 機能概要	4
2.1. 機能説明.....	4
2.2. 機能概念図.....	4
3. 動作環境	5
4. 構築フロー	5
5. インストール手順	6
5.1. インストール手順.....	6
6. 機能設定方法	7
6.1. データベース同期設定(SYNC.CONFIG.XML).....	7
6.2. 配信元での一時ファイル作成設定(FILECOPY.CONFIG.XML).....	7
6.3. ログ出力設定(LOG4J.XML).....	8
6.4. 他環境配信を実行するスクリプト(DELIVERY.SH).....	8
6.5. パーミッション確認.....	9
7. 手動実行、結果の確認	9
8. 定期実行登録	9
9. 制限事項	9
10. 付録 - 設定ファイルサンプル	10
10.1. SYNC.CONFIG.XML.....	10
10.2. FILECOPY.CONFIG.XML.....	11
10.3. DELIVERY.SH.....	12

1. 本文書の目的と対象ライセンス

1.1. 目的

本文書は、弊社がお客様に納品する CMS パッケージ製品「HeartCore」における、他環境データ配信の操作方法を説明しております。お客様が実際に他環境データ配信を利用するにあたり、本文書を参照することで、該当機能の一通りの操作を行うことができることを目的としております。

1.2. 対象ライセンス

当該機能を提供しているライセンスは以下の通りです。尚、価格は価格表を参照願います。

	Professional		Enterprise	
	Standard	Suite	Standard	Suite
他環境データ配信機能	○	●	○	●

●：標準装備 ○：オプション装備 -：設定なし

※JSP 版のみの提供となります。

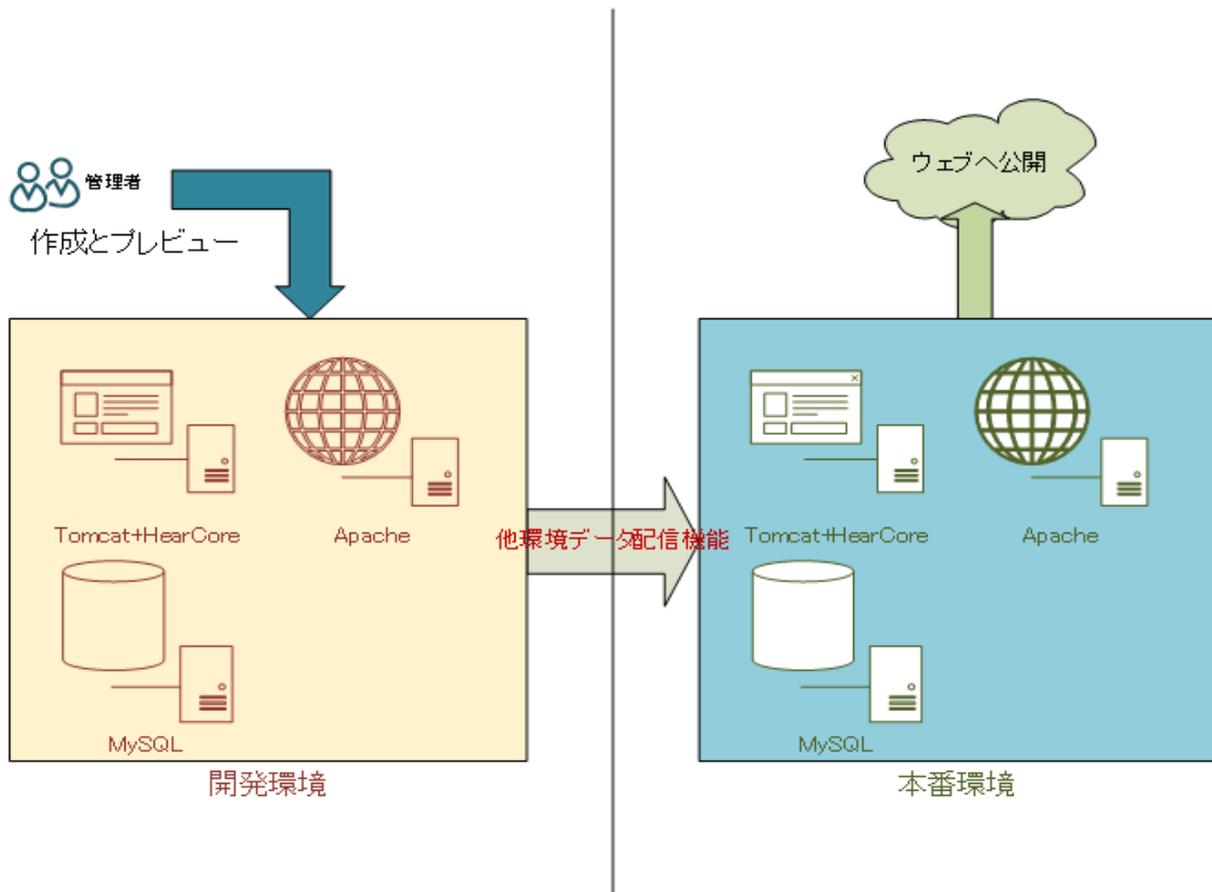
2. 機能概要

2.1. 機能説明

他環境データ配信は、HeartCore 環境(A 環境)から、別の HeartCore 環境(B 環境)に対してデータベースの情報と、HeartCore で作成したコンテンツの物理ファイルを配信する機能です。

2.2. 機能概念図

当該機能のイメージ図を図示します。開発・検証環境と本番(公開)環境が分かれている例です。



3. 動作環境

Linux 系 OS(現バージョンでは、Windows 環境には対応していません)

rsync がインストールされている事

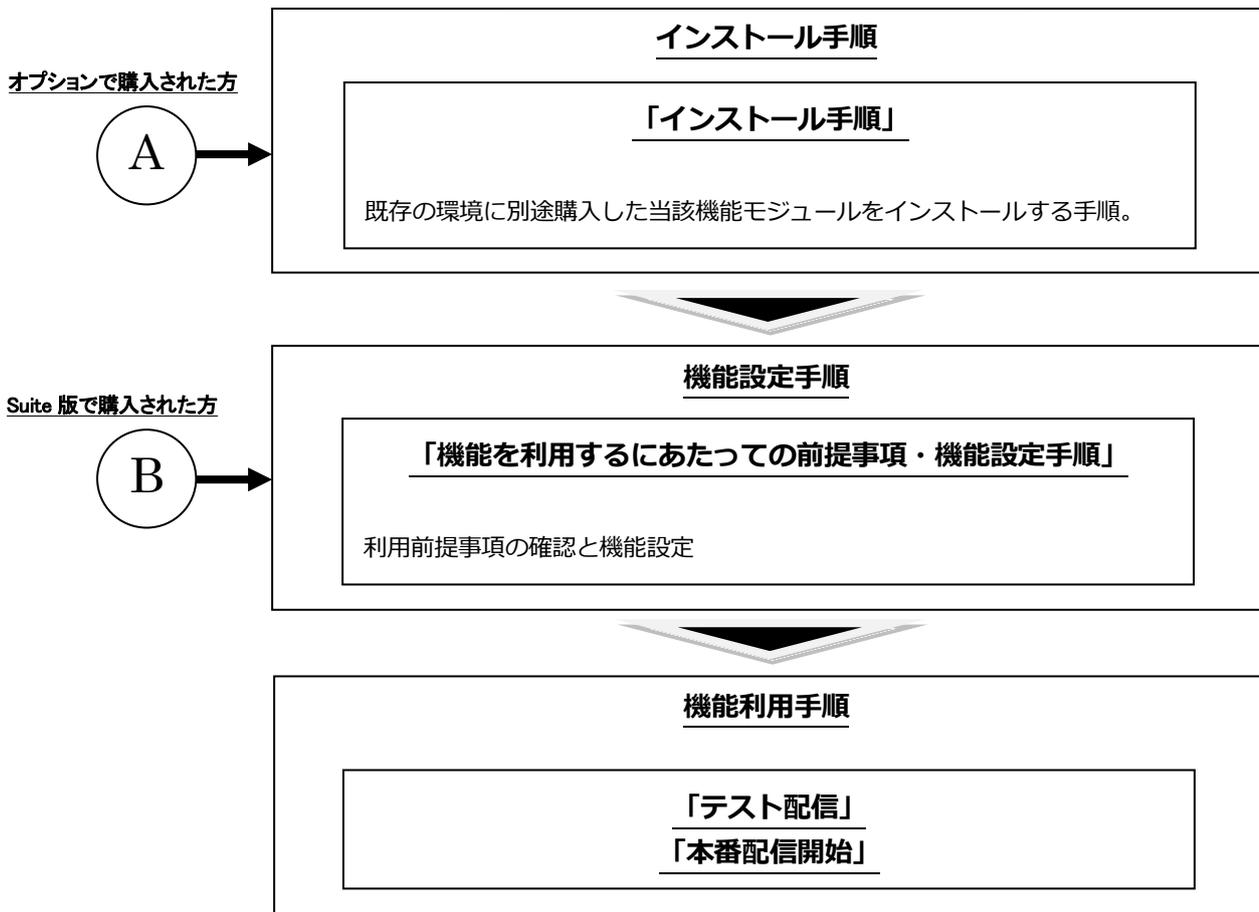
送信先サーバーに、送信元から、MySQL, SSH アクセス出来る事

送信元に、転送したいファイル以上の空き領域がある事

※送信する前に、ローカルに一時コピーした後、rsync で転送するためです。

4. 構築フロー

以下に機能を構築するフローを記載します。大きくは、「インストール手順」、「機能設定手順」、「機能利用手順」に分けて記述しています。尚、当該機能を「Suite 版で購入された方」は A の「インストール手順」は必要ありませんので、B から設定開始する事となります。



5. インストール手順

「3. 構築フロー」に記載している、「インストール手順/機能設定手順」の詳細手順を以下に記載します。

5.1. インストール手順

インストール手順を下記に記載します。当該機能を「Enterprise 版でご購入された方」はこの章を読み飛ばして下さい。

(1) 提供方法

オプションモジュールのため、営業までご連絡ください。

(2) 提供物内容

他環境データ配信機能操作マニュアル.pdf(本マニュアル)

synchronized_other_environment.zip

(3) インストール手順

A) モジュール適用

Synchronized_other_environment.zip を任意のフォルダに解凍

Tomcat の ROOT ディレクトリ内に、解凍したモジュールを展開します。(上書き、確認が出た場合は上書きを許可してください。)

B) モジュール設定

モジュールを実行するために必要なファイルを編集してください。

また、他環境データ配信はログの出力・一時的なファイルのコピーを行いますので

必要に応じて、ログの出力先及び一時ファイルのコピー先ディレクトリを作成してください。

B-1 実行設定ファイル

delivery.sh 他環境配信を実行するスクリプト

filecopy.config.xml 一時ファイルを作成するための設定ファイル

sync.config.xml データベース同期の設定ファイル

log4j.xml 実行ログ出力定義ファイル

6. 機能設定方法

本機能を利用する上で、上記実行設定ファイルを編集する必要があります。
以下に設定内容を記載します。

6.1. データベース同期設定(sync.config.xml)

親要素	要素名	設定例	設定内容
datasource	name	SourceServer/TargetServer	変更しないでください
	driver	com.mysql.jdbc.Driver	JDBC ドライバのフルネーム
	url	jdbc:mysql://127.0.0.1:3306/heartcore	JDBC 接続文字列
	username	hcadmin	HeartCore データベース接続ユーザー名
	password	hcadmin	HeartCore データベース接続パスワード
transaction/batchrule	tablename	content	同期したいテーブル名
	columns	*	同期したいカラム名
	pk/column/	id	テーブルのプライマリキー名
	where	※制限事項 2	絞り込み条件

6.2. 配信元での一時ファイル作成設定(filecopy.config.xml)

親要素	要素名	設定例	設定内容
batchconfig	copymethod	filecopy	sftp または filecopy(rsync) ※制限事項 1
batchconfig/datasource	name	SourceServer	変更しないでください
	driver	com.mysql.jdbc.Driver	JDBC ドライバのフルネーム
	url	jdbc:mysql://127.0.0.1:3306/heartcore	JDBC 接続文字列
	username	hcadmin	HeartCore データベース接続ユーザー名
	password	hcadmin	HeartCore データベース接続パスワード
batchconfig/sftp_connection	server	202.215.33.204	sftp サーバーアドレス
	username	root	sftp アクセスユーザー名
	password	password	sftp アクセスパスワード
	port	22	sftp ポート
	keyfile_path	/root/root_202.215.33.204_id_rsa	sftp アクセス鍵ファイル

Batchconfig/batchrule	table_name	content	HeartCore コンテンツ管理テーブル名
	columns	server_filename	コンテンツファイル名が格納されているカラム名
	image_root	※制限事項 2	
	where	※制限事項 2	
batchconfig	from_directory	/usr/local/tomcat/webapps/ROOT/	HeartCore インストールディレクトリ
	to_directory	/tmp/sync_tmp/	一時保存ディレクトリ

6.3. ログ出力設定(log4j.xml)

親要素	要素名	設定例	設定内容
log4j/appender	<!ELEMENT param File	value="/var/log/synchronize.log	実行ログ出力先

※詳細な設定は、[ApacheProject log4j](#) のマニュアルを参照してください。

6.4. 他環境配信を実行するスクリプト(delivery.sh)

変数名	設定例	設定内容
BASEDIR	/usr/local/tomcat/webapps/ROOT/WEB-INF	HeartCore インストールディレクトリ/WEB-INF
JDKDIR	/usr/local/jdk	jdk インストールパス
CLASSPATH	/usr/local/tomcat/webapps/ROOT/WEB-INF/classes	HeartCore インストールディレクトリ /WEB-INF/classes
START_FILE	/var/lock/sync.lock	シングルプロセスロックファイル
JVM_OPT -Dlog4j.configuration	/usr/local/tomcat/webapps/ROOT/log4j.xml	log4j.xml のフルパス
SYNC_DIR	/tmp/sync_tmp	6.2 の、to_directory の値
TO_SYNC_DIR	/usr/local/tomcat/webapps/ROOT	転送先サーバーのディレクトリ
LOG_DIR	/var/log/synchronize/	他環境データ配信ログ出力先
SHELL_ROOT	/usr/local/tomcat/webapps/ROOT	HeartCore インストールディレクトリ

※rsync 実行コマンドが、127, 128 行目に定義してあります。

必要に応じて編集してください。

※制限事項 3

6.5. パーミッション確認

6.1 の TargetDB が、転送先に存在することを確認してください。

他環境データ配信を実行するユーザーが

6.2 の from_directory に対する実行権限

6.2 の to_directory に対する書き込み・実行権限

6.4 の START_FILE, LOG_DIR の書き込み権限

を持っていることを確認してください。

7. 手動実行、結果の確認

delivery.sh を引数無しで起動し、上記設定ファイルの内容通りに動作していることを確認してください。

動作終了後、ログファイルを確認し、エラーが発生していないことを確認してください。

エラーが発生し、処理が中断された場合、6.4 の START_FILE が削除されないまま残ってしまい、次回実行時、処理されなくなります。手動にて削除してください。

8. 定期実行登録

cron 等に登録し、定期的に行われるよう設定してください。

9. 制限事項

1. sftp を利用することもできますが、完全に削除されたコンテンツの追跡が出来ないため完全に同期させることができません。
このため、filecopy(rsync)をご利用ください。
2. 設定を行っても、正常に動作しないパラメータです。
3. 利用していない変数が存在します。表外の変数は設定の必要はありません。

10. 付録 - 設定ファイルサンプル

10.1. sync.config.xml

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<batchconfig>
  <datasource>
    <name>SourceServer</name>
    <driver>com.mysql.jdbc.Driver</driver>
    <url>jdbc:mysql://127.0.0.1:3306/heartcore</url>
    <username>test</username>
    <password>test</password>
  </datasource>
  <datasource>
    <name>TargetServer</name>
    <driver>com.mysql.jdbc.Driver</driver>
    <url>jdbc:mysql://192.168.0.200:3306/heartcore</url>
    <username>test</username>
    <password>test</password>
  </datasource>
  <transaction>
    <batchrule>
      <table_name>content</table_name>
      <columns>*</columns>
      <pk>
        <column>id</column>
      </pk>
      <where></where>
    </batchrule>
    <batchrule>
      <table_name>content_public</table_name>
      <columns>*</columns>
      <pk>
        <column>id</column>
      </pk>
      <where></where>
    </batchrule>
  </transaction>
</batchconfig>
```

10.2. filecopy.config.xml

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<batchconfig>
  <copy_method>filecopy</copy_method>
  <datasource>
    <name>SourceServer</name>
    <driver>com.mysql.jdbc.Driver</driver>
    <url>jdbc:mysql://127.0.0.1:3306/heartcore</url>
    <username>test</username>
    <password>test</password>
  </datasource>
  <sftp_connection>
    <server>202.215.33.204</server>
    <username>root</username>
    <password>password</password>
    <port>22</port>
    <keyfile_path>/common/syncbatch/test/id_rsa</keyfile_path>
  </sftp_connection>
  <batchrule>
    <table_name>content</table_name>
    <columns>server_filename</columns>
    <image_root></image_root>
    <where></where>
  </batchrule>
  <from_directory>/usr/local/tomcat/webapps/ROOT/</from_directory>
  <to_directory>/tmp/sync_tmp/</to_directory>
</batchconfig>
```

10.3. delivery.sh

```
# 他環境データ配信モジュールを配置したクラスパス
BASEDIR=/usr/local/tomcat/webapps/ROOT/WEB-INF
# JDK のパス
JDKDIR=/usr/local/jdk

# Java 実行時のクラスパス
CLASSPATH=/usr/local/tomcat/webapps/ROOT/WEB-INF/classes

for file in `ls $JDKDIR/lib` ; do
    CLASSPATH=$CLASSPATH:$JDKDIR/lib/$file
done

for file in `ls $BASEDIR/lib` ; do
    CLASSPATH=$CLASSPATH:$BASEDIR/lib/$file
done

## 起動ファイル
#START_FILE=/XXXX/XXXX/lock/release.lock
START_FILE=/usr/local/tomcat/logs/release.lock

## データ更新クラス (起動クラス)
ACTION_CLASS=batch.synchronize.DBSyncBatch

## ファイルコピークラス
ACTION_COPY_CLASS=batch.synchronize.FileCopyBatch

## JVM オプション
JVM_OPT='-Xms128m -Xmx2500m -Dlog4j.configuration=file:///usr/local/tomcat/webapps/ROOT/log4j.xml'

## 同期先アドレス
TO_ADDRESS=192.168.0.200

## 配信元環境 rsync 同期化対象ディレクトリ
SYNC_DIR=/tmp/sync_tmp

## 配信先環境 rsync 同期化対象ディレクトリ
TO_SYNC_DIR=/usr/local/tomcat/webapps/ROOT
```

```
##ログファイル
LOG_DIR="/usr/local/tomcat/logs/"
logfile="${LOG_DIR}release_`date +%y%m%d%H%M%S`.log"
LOG_LIMIT_DAY="30"
logTime=`date`

#MySQL サーバの mysql コマンドのパス
#MYSQLCOM=

#他環境データ配信モジュールの配置場所パス
SHELL_ROOT=/usr/local/tomcat/webapps/ROOT

##他環境データ配信
SYNC_CONFIG=$SHELL_ROOT/sync.config.xml

##ファイルコピー
FILECOPY_CONFIG=$SHELL_ROOT/filecopy.config.xml

##HeartCore データベースログイン ID
#DB_ID=

##HeartCore データベースログインパスワード
#DB_PW=

##ファイル配信用 rsync 実行ユーザ
#TOSYNC_USER=

~ 中略 ~

## バックオフィス Rsync 起動要求
echo "バックオフィスからフロントへファイルの転送を開始します" >> $logfile 2>&1
#/usr/bin/rsync -a -e ssh admin@$SYNC_DIR $TO_ADDRESS:$TO_SYNC_DIR
/usr/bin/rsync -a -e "ssh -i $SHELL_ROOT/id_rsa -l admin" $SYNC_DIR $TO_ADDRESS:$TO_SYNC_DIR
```

以上